ニュースファイル Newsfile

行政

障害者権利条約、成立

障害者への差別を禁止する障害者権利条約が、２０１３年12月、参議院本会議で批准が承認された。

同条約は、「障害に基づくあらゆる差別」の禁止や、障害者の権利・尊厳を守ることをうたう。２００６年に国連総会で採択され、２００８年に発効。条約締結国は１３７カ国と欧州連合。障害者に健常者と平等な権利を保障し、社会参加促進へ必要な措置を取ることを締約国に求めている。

地方の動き

東京

ヘルプカードを作成

町田市と八王子市は、障害者や難病のある市民を対象に緊急時や災害時に支援を必要としていることが一目でわかる免許証大の「ヘルプカード」などの無料配布を始めた。

町田市は、プラスチック製のカードと「ヘルプ手帳」をセットで配布。カバンなど目立つ場所にカードを掲示し、個人情報と具体的な支援内容はプライバシーに配慮して手帳に記入する。５千セットを用意し、障害者手帳の有無にかかわらず、市内在住の希望者に配布。八王子市のカードは４つ折りで、内側に障害の内容や支援してほしいこと、連絡先やかかりつけの病院などを記入する。障害者手帳の有無にかかわらず、希望すれば市内在住のだれでもカードをもらえる。市役所と市地域事務所で配布。

神奈川

障害者の自立支援で委託事業

神奈川県企業庁は、障害者の自立支援や社会貢献の取組みとして、処分すべき水道メーターを青銅製金属とプラスチックなどの廃棄物とに分解・分別する作業を福祉事業所へ委託する「水道メーター分解作業等業務委託事業」を始めた。

使用済み水道メーターは分解することなく売却していたが、分解して不純物を取り除く作業をすることで、障害者の就労機会の増加につなげる。また、不純物が取り除かれた青銅製金属は引取り単価が上がるため、企業庁にも売却収入の増加が期待できる。今年度はモデル事業として、藤沢市内の２つの社会福祉法人に委託した。

熊本

「障害者サポーター制度」スタート

熊本市は、研修を受けた市民が街で困っている障害者を手助けする「障がい者サポーター制度」をスタートさせた。

サポーターは、障害がある人と接する際の配慮の仕方などについて研修を受けて登録。街で困っている障害者を見かけたら、車いすを押したり、手を引いたりするほか、バスや電車などの公共交通機関の乗り降りや、買い物のお釣りのやり取りなどを手伝ったりする。

生活情報

北海道

規格外野菜を販売

障害者作業所「八雲シンフォニー」（二海郡）は、農家が生産しても流通ルートに乗せられない規格外の野菜を販売し、障害者の施設利用や職員の雇用につなげる取組みを始める。

作業所職員と障害者が対応可能な農家を訪れ、形が悪かったり、曲がったりしているだけで市場に出せないダイコンやカボチャ、長ネギなどを収穫・収集。価格は市販の野菜よりも３割ほど安くし、町内を移動販売するほか、注文を受けて高齢者や共働き世帯などに宅配。農家には、売上げに応じて野菜の代金を支払う。年間の売上げ目標は３００万円。

東京

福祉施設と連携の学内カフェ

「大妻女子大学多摩キャンパス」（多摩市）で、生活介護事業などを行う社会福祉法人「由木かたくりの会」と学生が連携して、学内カフェ「大妻ｄｅかたくり」を開店した。

大学の地域連携プロジェクトとして、人間関係学部人間福祉学科小川ゼミと社会情報学部情報デザイン専攻炭谷ゼミが共同で実施。同会の利用者と職員、両ゼミの３年生が協力して、毎週木曜日午前11時半から午後１時にオープン。焼きたてのパンやクッキーなどのほか、コーヒーや紅茶も50円で販売している。

徳島

視覚障害者の外出援助資格に実習協力

「徳島バス」（徳島市）は、視覚障害者の外出を援助する県認定資格「同行援護」の実習講座にバスを貸し出し、乗務員も一緒に研修を受ける取組みを始めた。

講座は年２回で、上半期の実習は７月に行われた。受講生は２人一組で視覚障害者の乗降やトイレ誘導のサポートを実習したほか、同行援護の資格を持つ講師から車いす客の乗降について学んだ。下半期のバスを使った実習は２月に行われる。

「ルンバ」に視覚障害者用モデル

アイロボット日本総代理店「セールス・オンデマンド」は、掃除ロボット「ルンバ」の視覚障害者用モデルを発売した。

ルンバ760をベースに、本体の操作ボタンや充電用のホームベース上に凸点を加え、視覚障害者に操作しやすくし、日本点字図書館の監修を受けて制作した音声取扱説明書を同梱。サイズは直径35センチ、重さは3・8キロ。日本特別モデルで6万4800円。ルンバ公式直販サイトか、日本点字図書館で購入できる。

働く

障害者雇用促進に特例子会社設立予定

「富士通」（神奈川県）は、子会社「富士通ハーモニー」を川崎工場内に設立した。事業内容は、富士通の書類の発送・廃棄・PDF化、構内配送、リサイクル、会議・セミナー準備のサポートなど。資本金1千万円。特例子会社の認定を取得する。

「東海ゴム工業」（愛知県）は、子会社「TRIジョイフル」を本社内に設立した。事業内容は、東海ゴム工業内の郵便物集配、社内文書の回収・配達・保管管理などと、印刷物の折込や職場内での配達。資本金700万円、障害者5人程度でスタート、段階的に新規雇用を進めていく。特例子会社の認定を取得する。

宮城 農福連携で障害者雇用

障害者の就労を支援する「アイエスエフネットライフ」（東京都）が、NPO法人「結いのこころ」（宮城県）の仲介で、農業と福祉の連携を図る「あすファーム松島」（宮城県）を設立した。

同法人には松島町やJA仙台も設立を後押し。障害者を雇用して、松島町内で農作物の生産と加工を行い、ブランド化を目指す。

開発

呼気でパソコン操作 世界初のマウス開発

「近畿大学生物理工学部」（和歌山県）人間工学科准教授の北山一郎さんと中川秀夫さんが、体を動かすことができない重度障害者も、呼吸のみで上下左右にパソコンのカーソル操作などを可能にする世界初の「呼気マウス」を開発した。

工業用流量センサーを応用。センサーからの信号を変換機が読み取り、パソコンに指示を与える。「吸う」「吹く」と強弱を使い分けて、上下左右の動きを実現した。

短く1回吹けば左クリック、短く2回吹けば左ダブルクリック、短く1回吸えば右クリックできる。また、吹き続けたり吸い続けたりすることで、画面の隅から隅までマウスポインタを移動させることができる。OS付属のスクリーンキーボードを表示すれば、文字入力も可能。

その他の情報

国際障害者ピアノフェスティバルで金賞

障害者による4年に1度のピアノ音楽の国際的祭典「第3回国際障害者ピアノフェスティバル」がオーストリアのウィーンで開かれ、課題曲によるコンクール部門で熊本県出身の月足（つきあし）さおりさんが金賞、東京都の太田将誉さんが銅賞に選ばれた。

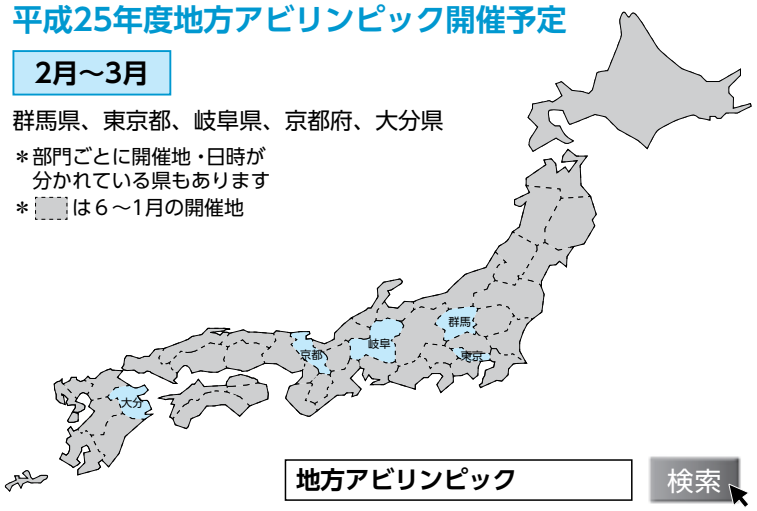
同フェスティバルは、2005（平成17）年に「ピアノパラリンピック」の大会名で横浜市で開催され、その後、現在の大会名に。今回は20近くの国・地域から約50人が参加した。

平成25年度地方アビリンピック開催予定

2月～3月

群馬県、東京都、岐阜県、京都府、大分県

＊部門ごとに開催地・日時が分かれている県もあります
＊□は6～1月の開催地



地方アビリンピック　検索